

連携館ワークショップ「ひみつのたまご」をつくろう!

2022年8月18日(木)・19日(金) 入間市博物館ALIT

講師:みょうかさん

新型コロナウイルス感染症の状況が心配される中、特に要請はされていませんでしたが、部屋の規模から考えて人数を絞って10名の募集としました。そうしたら受付初日の午前中には満員!当日もキャンセル無く全員参加ということで、リアル参加できるワークショップの希望がとても多いのだなあと実感しました。

まずは、みょうかさんが完成見本を参加者のテーブルを回りながら紹介。初日は風船を膨らませてその周りに和紙をちぎったものを張り子の要領で貼っていきます。みょうかさんが身に纏う、同じ手法で制作された自作の被り物やステッキ(どちらも光ります!)にも参加者の視線が集まりますが、今日は作りませんよ。

まずは、大きいサイズの和紙を、貼やすいように手頃なサイズにちぎります。

スピーディーに進めていく子、サイズ感を合わせるためにじっくり取り組む子、この時点でかなり個性が出ます。

風船全体を和紙で覆えたら、今度は「ひみつのたまご」の秘密の部分、たまごの表面にさまざまな色の紙を使って模様や絵などを貼っていきます。

今回参加されたみなさん、大変にこの部分にこだわって制作されていました。ワークショップの時間延長です!

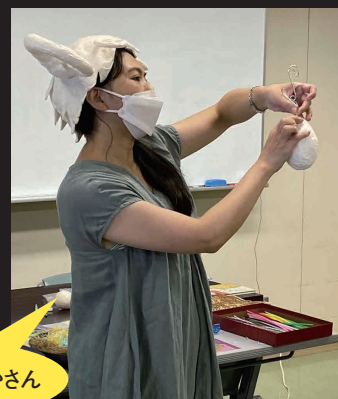
色の組み合わせやデザインのアイデアについてみょうかさんからアドバイスをもらう子もいたり、自分の考えでどんどん突き進む子もいたり、親子合作で取り組む子もいたり、出来上がりが楽しい光景が広がっていました。

ようやくひみつのデザインが貼り終えた

ところで、その上から4重に白い和紙を貼り重ねて行くと知り「えっ!」という子もいましたが、貼らないと「ひみつ」が秘密にならないよ!と聞き、がぜん張り切る姿が微笑ましかったです。

全員が和紙を貼り終え、毛羽だった部分に糊を塗って表面を整え、初日の内容はおしまい。これから明日までに乾燥させます。

2日目の朝。みょうかさんのテーブルの上に並んだものは、色とりどりの紙、モール、リボン、綿、色セロファンなどなど。そして参加者の前にはプラカップとハサミ、つまようじ、筆記用具と「作品シート」。今日は何をするのでしょうか?



講師のみょうかさん

ひみつのたまごの巣

夜通し風を送って乾かしますよ!

昨日と違うかぶりもので登場したみょうかさんから今日の内容の説明です。まずは一晩かけて乾かしたたまごから、つまようじで風船に穴を開け引っぱり出します。もしかして大きな音がするのでは?とおっかなびっくりな子もいましたが、プシュッと空気が抜けたので大爆発はありませんでした。

風船を抜いた開口部をハサミで少しずつ切り広げて、別に用意したLEDライトを差し込めるようにします。ここで切り過ぎてしまうと元に戻せません。みんな慎重に作業を進めます。

「ひみつのたまご」本体が完成しました!でもこれではたまごはコロコロ転がってしまいます。そこで今日用意してあったさまざまなデコレーショングッズの出番。「ひみつのたまごの巣」を作りましょう!

つつい「全部載せ」にしたいのですが、そうするとたまごが入らなくなります。



足し算のデザインと引き算のデザインのせめぎ合いが参加者の頭の中で繰り広げられています。

そして「作品シート」。昨日今日の参加者みんながアーティストです。自分の作品を紹介できるように、そしてこだわりポイントや大変だったところを書き残しておく、振り返りができていいですね。

全員の作品が完成しました。ここで即興で別室に移動して作品発表会をすることにしました!

講座室です。普段は講演会や上映会などをする部屋です。全員が順番に作品紹介を他の参加者や保護者に向けて行いました。みんな堂々と物おじせずに説明ができることに驚きました。

そして、スクリーン前のスペースに各自が置きたい場所、置きたい間隔で自分のたまごを配置して鑑賞しました。

最後に部屋の照明をオフ!ひみつの鑑賞アンド撮影タイム。本日のクライマックスですね。参加者それぞれ思い思いのデザインがライトに照らされて浮き上がっています。

みょうかさんが、入間市のマスコットキャラクター「いるティー」バージョンを作ってくれました。化粧まわしのところが難しかったそうです。

こうして全員がアーティストとして作品を制作し展示し持ち帰ることが出来ました。参加者からはまたやりたい!との声が多く聞かれました。みょうかさん、ぜひまた来てください。



入間市のマスコット「いるティー」



炎のデザインの子は、巣の色彩も赤く燃えるようにコーディネートしています。



チンアナゴの姿もくつきり。